



住吉ケアカフェ

～小地域ネットワーク構築のために～

大阪市住吉区医師会 在宅医療・介護連携相談支援室

小林裕子

【区の概況】

人口：152,088人

65歳以上人口：43,309人

高齢化率：28.5%

(R5年10月1日現在)

地域包括支援センター：4カ所

居宅介護支援事業所：77カ所

ケアマネジャーが2人以下の事業所

46件(59.7%)

訪問看護ステーション：48カ所



コロナ禍で

区内介護関係者の聞き取り調査

(介護関係者等約60カ所)

- **病院の面会制限・退院時カンファレンスの制限**
⇒退院時に十分な情報を得られず在宅での準備ができない
- **医療機関は多忙**
⇒介護関係者は相談できない・相談しにくいと思っている
- **会議や研修が中止・Webになる**
⇒小規模の事業所や一人ケアマネジャーの事業所は孤立気味
Webでの会議や研修ではちょっとした相談や質問はしづらい



新たな関係づくり、ちょっとした相談のできる場として

対面で交流できる場の設定が必要

医療者・介護者・福祉者のための

ケアカフェ®

Blending Communities

<https://www.carecafe-japan.com/>

顔の見える**関係**づくり

困っていることを相談できる**場所**づくり

- * いろいろな情報が得られる
- * 知識が身に付きやすい
- * どんなことも聞ける
- * “今”困っていることが解決される
- * 新たな発見が生まれる
- * 顔の見える関係ができる

ケアカフェ開催準備

- ・協力者によるケアカフェ**実行委員会**の立ち上げ
(病院MSW・主任ケアマネジャー・医介連携コーディネーター・地域包括支援センター管理者)
4名
- ・住吉区医療・介護連携推進会議にて**各団体に参加協力依頼**
- ・参加者は**各団体より推薦**してもらう
(コロナ禍での人数制限・各回違う人・広く多く)
- ・ケア・カフェ・ジャパン作成の**マニュアル・資料**を基に準備
(コロナ禍のため、紙パックのお茶のみ提供)
- ・開催の会場・資料などの**経費は医介連携相談支援室が支出**

ケアカフェ開催 (テーマ:今困っていること)

- **令和3年度 3回開催 75名参加**

区内地域を限定せず

医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・MSW・ケアマネジャー・区役所保健師等

- **令和4年度 2回開催 55名参加**

区内4包括圏域を2つに分けて

地域2か所で開催

- **令和5年度 5回開催 136名参加**

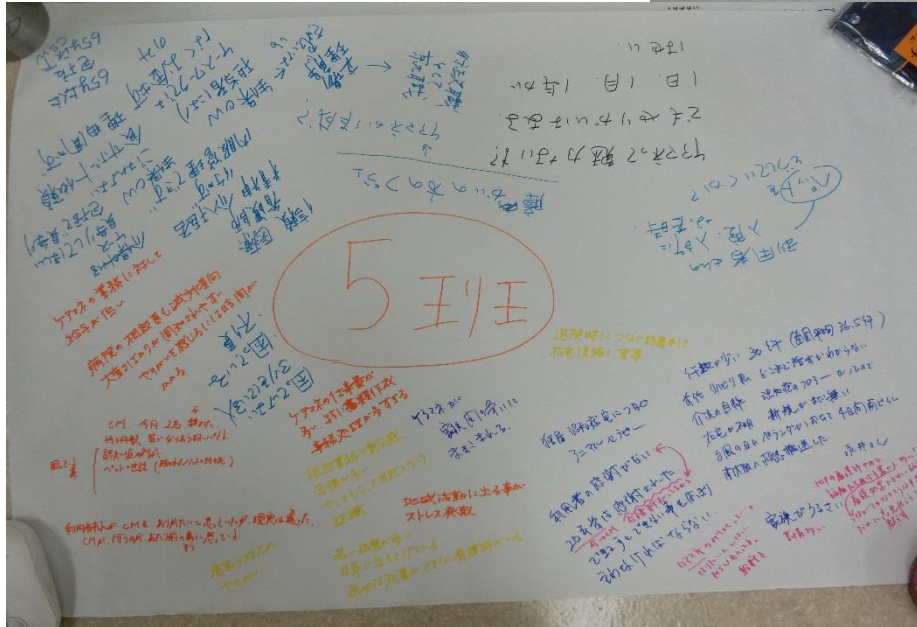
区内4か所の包括圏域4地域

地域の会館を借りて茶菓付きで開催

会場費・茶菓代は参加者からのカンパで開催

今年度さらにもう1回(3月)開催予定

第9回 令和5年 10月18日(水)14:00~16:00 (万領会館)



令和5年度第1～5回

ケアカフェアンケート結果より

参加者136名 アンケート回収97名

問1 本日のケアカフェは新しい関係づくりのきっかけとなりましたか？

はい	いいえ	無記入
95	0	2

問2 日頃お仕事をすることで、多職種との連携について悩んだり困ったりすることありますか？

はい	いいえ	無記入
79	12	6

問3 ケアカフェの感想

- ・久しぶりに会ってリアルな話をすることができてとても楽しかった
- ・お互いの困っていることを共感でき、楽しく実りのある機会でした
- ・新しい事業所さんとも知り合いになれてよかった
- ・勉強になったし、話を聞いてもらえてストレス発散になりました
- ・他の職種の困りごとや困っている世帯の話など知る機会になり勉強になった
- ・初めて名刺交換をできた人もいて、ますます関係構築の場としてケアカフェは必要だと思った。

【課題】

- ・小地域でのネットワーク構築の必要性やケアカフェの意義については理解しても、具体的な協力となると消極的（参加はしたいが開催準備などの定期的な協力は難しい）



限られた協力者（実行委員）の負担が大きい
（現在実行委員会はケアマネジャー10人と病院MSW 1名）

- ・必要経費をカンパで賄うが、地域により会館使用料等の費用が異なり、カンパが足りないと開催できない

とにかくケアカフェを継続する！

- ケアカフェジャパン等、他地域のケアカフェ開催者と情報共有しながら賛同者・協力者を増やす
- 顔の見える関係から協働できる関係を目指す
- 小地域のネットワークを構築し地域住民へ発信